

配布資料 06-1

第2回姫路市経済有識者会議

事務局報告（2）

～姫路市経済振興ビジョン～

令和8年（2026年）8月4日

姫路市産業振興課

姫路市経済振興ビジョン

姫路経済の成長と持続的な発展を目指し、成長への道筋を実現・実行するものとして今後取り組む戦略、施策を体系付けて整理した計画

人口減少下においても地域資源を活かし持続可能な経済成長を目指す

姫路市経済振興ビジョン 改定スケジュール

- ・ 改定作業は2カ年かけて行い、令和9年3月に完成予定
- ・ 検討懇話会は令和7年度に2回、令和8年度に4回程度開催
- ・ 姫路市経済の10年後の「あるべき姿」を見据え、有識者からなる検討懇話会にて協議

第1回

済

R8年2月12日（木）
午後3時～

- ・ ビジョン概要
- ・ 第1回有識者会議報告
- ・ データ分析結果の紹介
- ・ 将来推計の紹介

第2回

済

R8年3月27日（金）
午後3時～

- ・ 委員報告
山下委員
西郡委員
澤田委員
- ・ 「あるべき姿」の協議、仮案策定

第3回

済

R8年5月29日（金）
午前10時～

- ・ 提言書の紹介
支援4団体
 - ・ 商工会議所
 - ・ 商工会
 - ・ 経営者協会
 - ・ 連合
- ・ 「あるべき姿」意見交換→決定

第4回

済

R8年7月3日（金）
午後1時～

- ・ 委員報告
地場企業の現状紹介
- ・ 政策方針協議

第5回

R8年10月頃

- ・ パブコメ案共有

第6回

R9年2月頃

- ・ これまでの議論の総括
- ・ パブコメ結果報告
- ・ 最終案の共有

姫路市経済振興ビジョン検討懇話会 開催状況



検討懇話会委員

(敬称略)

	分野	所属	肩書	氏名
1	学識（座長）	兵庫県立大学	副学長	畑 豊
2	学識	武庫川女子大学 経営学部 経営学科	准教授	山下 紗矢佳
3	経済	姫路商工会議所	副会頭	長尾 真 神姫バス
4		姫路市商工会	理事	壺坂 良昭 壺坂酒造
5		播磨経営者協会	副会長	壺阪 康裕 ツボサカ機鋼
6	労働関係	連合兵庫西部地域協議会	議長	横山 孝司
7	金融機関	姫路信用金庫	支援部 部長	藤谷 美穂
8	創業関係	NPO法人 姫路コンベンションサポート	理事長	玉田 恵美
9	D X ・ A I 人材	株式会社Ready to Bloom	Founder&CEO	西郡 琴音
10	地場産品展開	ミテモ株式会社	代表取締役	澤田 哲也

各種統計データや調査結果、政府資料を通して課題を整理。バックキャスティングの手法に基づき、第3回検討懇話会にて「10年後のあるべき姿」を定義

10年後のあるべき姿

- 人口減少という労働力の量的減少を受け入れながらより一層の経済成長を目指すには、新たな価値を生み出す必要がある
- 既存市場を打ち破る価値を生み出すには、未知の領域へ挑戦することが重要である
- また、労働力の観点からは、経済成長もさることながら、「住みやすさ」「働きやすさ」という生活者目線でのくらしの充実も欠かせない



10年後のあるべき姿

挑戦と新たな価値が循環する
働きやすく・くらしやすい姫路

参考：支援団体提言書における「10年後のあるべき姿」 …あるべき姿の案を作成するにあたり支援団体の意見を文書で徴取したもの

商工会議所

人口減少や産業構造の転換が進む状況においても、経済規模と活力を維持・発展させることができる産業基盤を備えている

商工会

「都市部の牽引力」と「周辺部の姫路北部・離島の底力」が両輪となり、人口減少下でも豊かさを実感できる姫路市

経営者協会

持続的に成長する産業基盤と、多様な人材が活躍できる労働環境を備えた、かつ人々が住み続けたいと感じる魅力を兼ね備えた、選ばれる産業都市

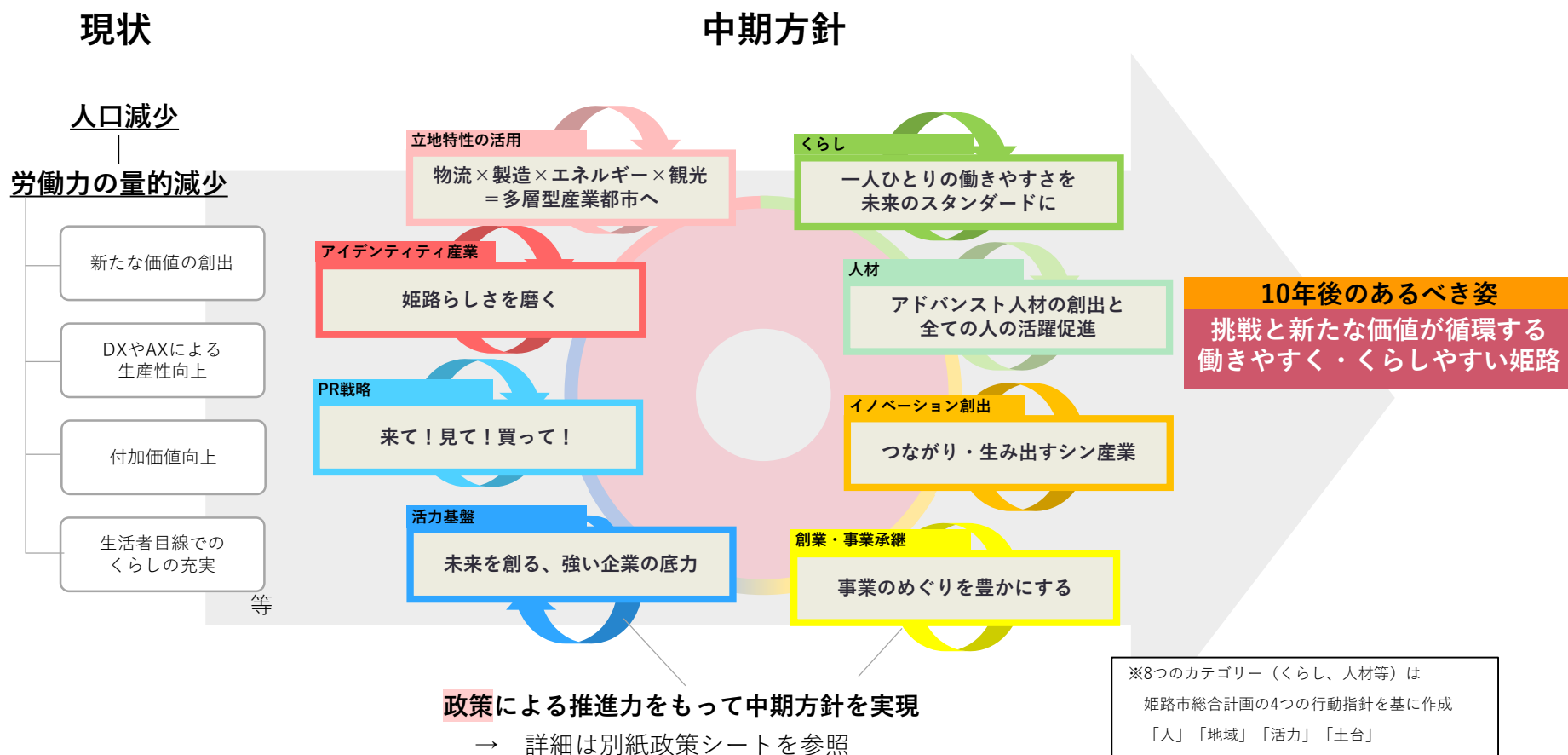
連合

働きやすく、子育てしやすく、高齢者にも優しいまちづくり

姫路市経済振興ビジョン 全体像

さらに「10年後のあるべき姿」を実現するために、8つのカテゴリーごとに中期方針（＝計画期間の5カ年で達成すべき目標）を設定

姫路市経済振興ビジョン イメージ



ビジョンにおける“政策”の位置付けと取扱い

中期方針および政策について、下記のとおり定義し、これまでの議論を踏まえて事務局にて政策を提案、検討懇話会内で協議した

中期方針

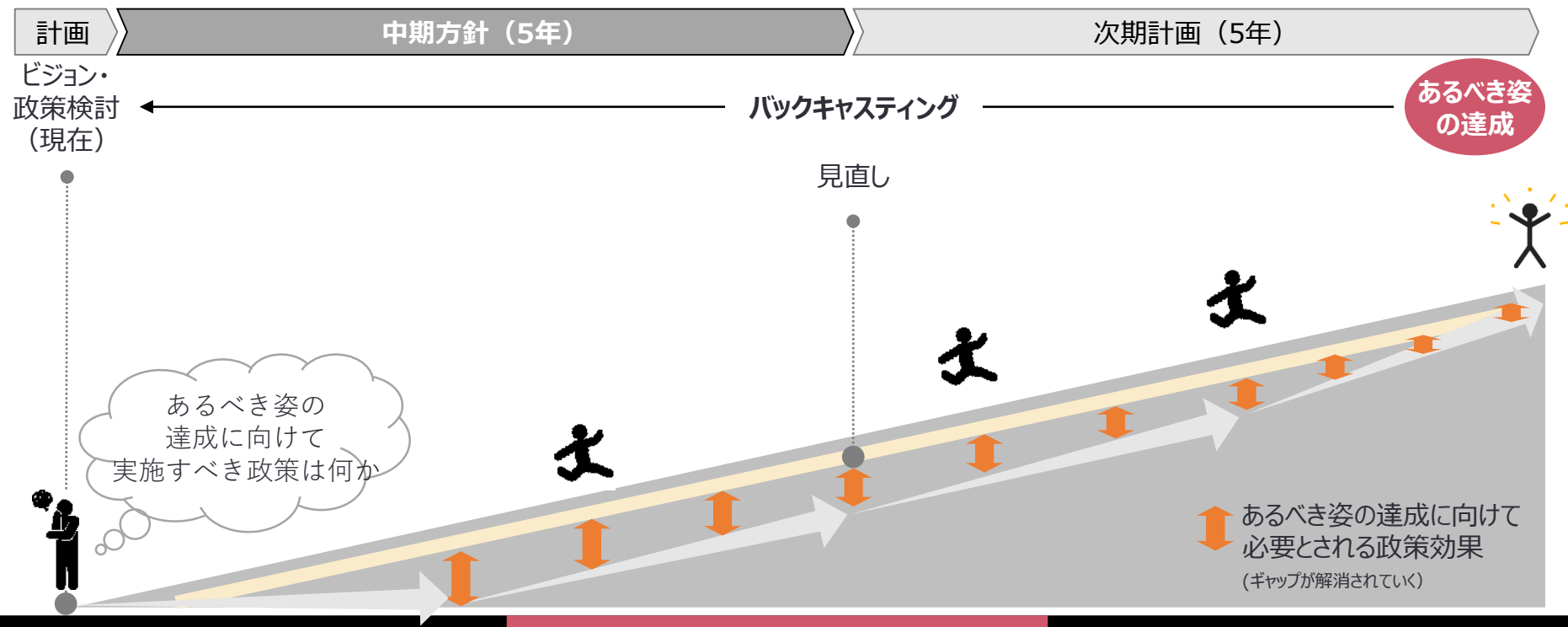
10年後のあるべき姿「挑戦と新たな価値が循環する働きやすく・暮らしやすい姫路」に向けて、8つのカテゴリーごとに定めた、**ビジョンの計画期間（5か年）**で達成すべき目標

- カテゴリー単位で達成度を把握することにより実効性を担保

政策

中期方針で定めた目標を実現するために、行政や関係者が取り組む**事業の方向性**

- 個別事業の羅列ではなく、**複数の事業を実施目的で束ねたもの…目的意識の明確化**
- 政策に**メリハリ**をつけるため、各カテゴリーごとに**重要政策を設定**



第1回有識者会議 > 複数分野にまたがる項目への対応状況



有識者会議にて経済分野で管轄すべき範囲として定められた事項については、カテゴリー単位で対応

トピック	項目	詳細を記載する計画
企業	企業の外国人材の受け入れ(制度・環境整備) →くらし・人材	経済
	地域企業の海外展開 →PR戦略・アイデンティティ産業	経済
	地域産品の海外販路開拓 →PR戦略	経済
	観光関連産業の成長に伴う雇用創出	観光
インバウンド	国際交流の活発化によるインバウンド観光の受入体制強化	観光
	インバウンド受入体制強化による経済効果の拡大	観光
MICE	MICE推進による地域経済の活性化	観光
	国際会議の受入・実施体制の確保, 誘致	観光
都市の魅力向上	都市のブランド力強化による経済効果の拡大 →PR戦略・アイデンティティ産業・立地特性の活用	経済
	海外に向けた効果的な都市プロモーション	国際
その他	グローバル人材育成・確保	国際
	観光DXの推進	観光
	観光消費額の更なる向上	観光

国際に関しては、主に人材やPRに関する部分について意見が交わされた。
観光に関しては、主に職人技術の観光産業化や交通網と併せて検討する必要性について意見が交わされた。

また、両方に関連する事項として、ターゲットを意識したPR戦略について意見をいただいた。

国際

外国人材の活用は、人口減少による労働力減少への対応策として、DX/AI等の省力化と並列で議論されてきた

- 人手不足は中小企業にとって喫緊の課題であり、外国人受入も対処方法のひとつであるが、手続きが煩雑であること、また、外国人材の日本語レベルにバラツキがあることにハードルの高さを覚える経営者も多く、一部行政の支援を求める声もある、との地元企業の現状紹介があった（第4回検討懇話会）

外国人材に選ばれる都市となるためのPRの手法についても意見が交わされた

- （人材不足に対応する手段として）姫路市が外国人材が来訪し学びたいと思える代表地域となること、そのために「姫路市といえばコレ」と思われるようアピールしたい文化を定めて発信すると効果的ではないか（第1回検討懇話会）

観光

モノづくりの技術・文化を観光産業としてPRすることで、職人の地位向上とともに、姫路城以外の市内・域内の訪問先として選ばれることにもつながる、との意見が交わされてきた

- 職人は国内の見学者よりはインバウンドの来訪を歓迎する傾向があるが、職人に対するリスペクトがより感じられるからではないか（第2回検討懇話会）
- 姫路の製造業（清酒等を含む）は寡黙な職人の技術により支えられている、そのような技術が無形資産として外向けにPRすることで職人自身が自らの価値を再確認し、ものづくりへの誇りを持ち直してもらいたい（第2回検討懇話会）

交通網と併せて観光産業を考える必要があるとのご意見も寄せられた

- 地域間交通の側面のみならず、人流データ等を活用して観光産業と組み合わせ、新たな観光コンテンツに昇華できないか（第3回検討懇話会）

共通

「PR戦略」では、誰に対して、どのような姫路の魅力を発信するかが重要であるとの意見を頂戴した

- PR戦略は、観光においても産業においても長年の課題。10年後を見据えた可能性を含めた発信等、将来の労働力確保や定住につながることを目指して発信を行うと良い（第3回検討懇話会）

経済振興ビジョン > 他2計画へ共有事項



国際に関しては、外国人材受入・企業の海外展開について、方向性を擦り合わせる。
観光に関しては、成長産業の分野のひとつとして取り扱っており、政策として複数のカテゴリーに記載を盛り込んだ。

経済⇄国際

<外国人材受入>

- ・ 経済振興ビジョン・国際戦略の双方で「**企業の外国人材の受入・定着**（制度・環境整備）」について記載する。

<地元企業の海外展開>

- ・ 経済振興ビジョン・国際戦略の双方で「**地元企業の海外展開**」について記載する。

※両計画にまたがる項目については、施策の方向性の整合を図る。

政策での記載（案）

【くらし】

政策4「**多様な人材を受け止める地域就労基盤の形成**」

年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、働く意欲と能力を地域企業につなげる相談・マッチング・職務設計を進める。

【人材】

政策7「**技能・技術の継承と高度化**」

姫路の産業を支える技能者等の労働環境の改善、若手・外国人材等への技能承継や業界の高度化を支援する。

政策8「**職業ミスマッチの解消支援**」

就業構造が変化しても、若者、女性、高齢者、外国人材等がそれぞれの能力を発揮できるよう、学び直し、職務転換、受入環境整備を支援する。

【PR戦略】

政策23「**ターゲット別の魅力発信**」

若者、観光客、域外人材、企業、バイヤー等に対し、それぞれが求める魅力を整理し、発信方法を最適化する。

経済⇄観光

政策での記載（案）

【イノベーション創出】

政策12「**データや先端技術による新産業創出**」

人流・検索データや次世代モビリティ等の先端技術を活用し、観光二次交通や地域移動の課題解決と新たな観光体験を検討する。

【創業・事業承継】

政策15「**エリアの個性を活かしたにぎわい創出**」

駅西等の個性的なエリアで、空き店舗活用や地域コミュニティの形成・活性化を通じて、小規模創業が核となり、にぎわいが生まれる土壌を形成する。

【PR戦略】

政策23「**ターゲット別の魅力発信**」

若者、観光客、域外人材、企業、バイヤー等に対し、それぞれが求める魅力を整理し、発信方法を最適化する。

政策25「**姫路城から地域の魅力へつなげるPR**」

姫路城を目的に訪れた訪問客に対し、姫路並びに播磨の逸品に触れる機会を創出し滞在時間や消費を伸ばす。

【アイデンティティ産業】

政策30「**観光資源と産業資源の融合**」

姫路城、書写山、家島、酒蔵等の観光資源と地場産業をつなげ、滞在時間と観光消費額を伸ばす。

【立地特性の活用】

政策35「**播磨連携中枢都市圏による産業活性化**」

播磨圏域の8市8町が連携し、播磨の産業（観光を含む）の魅力を高めることで、企業集積、人材育成、まちのにぎわいを一体的に高める。

挑戦と新たな価値が循環する 働きやすく・暮らしやすい姫路

No	カテゴリー	中期方針	政策タイトル	政策概要
1	暮らし	一人ひとりの働きやすさを未来のスタンダードに	働きやすく・暮らしやすい地域標準（≒姫路モデル）の形成	柔軟な働き方、両立支援、休暇取得、健康経営等を市内企業に広げ、働く人が生活の質の高さを実感できる、働きやすく・暮らしやすい姫路をつくる。
2	暮らし	多様な価値観と働き方を尊重し、一人ひとりが自分らしい働き方を選び、安心してくらすよう、働く環境と生活基盤の質を高める	若者・女性に選ばれる雇用環境づくり	20代転出超過や女性労働力率の課題を踏まえ、賃金、キャリア形成、登用、働きがいの改善に取り組む企業を後押しする。
3	暮らし		くらしと仕事を両立する時間価値の向上	通勤、会議、事務作業等の見直しを通じ、働く人が家族、学び、地域活動に使える時間を増やし、生活満足度を高める。
4	暮らし		多様な人材を受け止める地域就労基盤の形成	年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、働く意欲と能力を地域企業につなげる相談・マッチング・職務設計を進める。
5	人材	アドバンスト人材の創出と全ての人の活躍促進	若者・学生が集まる産業人材循環の形成	高校生・大学生等が姫路の企業や産業に触れる機会を増やし、まちのにぎわい、地元就職、将来の定着につなげる。
6	人材	技術革新に対応するため、変化に応じて自ら学び挑戦し続ける自律的な人材を育成する基盤の構築を支援する	地元企業理解の促進	職業体験や企業訪問の機会を広げ、若者が姫路の産業集積や働く魅力を実感できる環境をつくる。
7	人材		技能・技術の継承と高度化	姫路の産業を支える技能者等の労働環境の改善、若手・外国人材等への技能承継や業界の高度化を支援する。
8	人材		職業ミスマッチの解消支援	就業構造が変化しても、若者、女性、高齢者、外国人材等がそれぞれの能力を発揮できるよう、学び直し、職務転換、受入環境整備を支援する。
9	人材		アドバンスト人材を育てる学びの基盤形成	AI、DX、脱炭素、GX、海外展開等の変化に対応できる人材を、企業・教育機関・経済団体が連携して育成する。
10	イノベーション創出	つながり・生み出すシン産業	産学官金連携による新価値創出	市内並びに播磨圏域内の多様な企業、大学、金融機関、行政がつながり、新製品・新サービス・新規技術・新分野進出を生み出す環境を整える。
11	イノベーション創出	企業及び企業が中心となった主体による研究・開発など、姫路市域における発展的な企業活動を支援し、地域産業の高度化と新たな価値の創出を実現する	挑戦案件を継続的に生む相談・伴走機能	事業案の壁打ち、専門家接続、資金調達、補助金活用等を一体的に支える仕組みを整える。
12	イノベーション創出		データや先端技術による新産業創出	人流・検索データや次世代モビリティ等の先端技術を活用し、観光二次交通や地域移動の課題解決と新たな観光体験を検討する。
13	イノベーション創出		イノベーション創出チャレンジへの支援	素材・製造に強い姫路の産業特性を活かし、試作、研究開発、知財、販路接続を支援して新市場への展開を促す。
14	創業・事業承継	事業のめぐりを豊かにする	地域に活力をもたらす創業の促進	まちなか、北部、家島等の地域独自の資源や課題を活かし、生活者目線の新たな事業創出を促す。
15	創業・事業承継	に支え、事業の新陳代謝と成長機会を生み出す持続的な地域経済を構築する	エリアの個性を活かしたにぎわい創出	駅西等の個性的なエリアで、空き店舗活用や地域コミュニティの形成・活性化を通じて、小規模創業が核となりにぎわいが生まれる土壌を形成する。
16	創業・事業承継		若者・学生によるチャレンジ創業の促進	高校生・大学生等が地域課題や産業資源を題材に小さく挑戦できる環境を整え、将来の起業・地元定着につなげる。
17	創業・事業承継		事業承継の円滑化と見える化	後継者不足企業の実態を把握し、黒字廃業の回避、雇用・技術・顧客基盤の継承を支援する。

挑戦と新たな価値が循環する 働きやすく・くらしやすい姫路

No	カテゴリー	中期方針	政策タイトル	政策概要
18	活力基盤	未来を創る、強い企業の底力 企業の競争力向上に向けてソフト・ハード両面の強化を進め、世界水準の産業都市としての成長を実現するとともに、企業の安定的な維持・存続を図る	生産性向上と業務変革の推進	AI、デジタル、設備改善等により非付加価値業務を減らし、人手不足下でも稼ぐ力を高める。
19	活力基盤		素材・製造の強みを活かした産業集積強化	素材・製造が強い姫路の産業特性を踏まえ、既存企業の高度化と関連産業の集積を一体的に進める。
20	活力基盤		前向き投資を生む企業体質づくり	設備、人材、研究開発、省エネ等への投資を促し、企業の維持・成長と地域経済の好循環を支える。
21	活力基盤		小規模事業者・中小企業の経営基盤強化	資金繰り、販路、人材、設備、BCP等の経営課題に対して、関係機関が連携した伴走支援を行う。
22	活力基盤		支援団体等との連携強化	支援団体等との連携を強化し、定期的に情報交換等を行うことで中小企業や労働者のニーズを的確に把握し、適切な事業展開につなげる。
23	PR戦略	来て！見て！買って！ 地域企業の競争力を高めるため、企業価値・製品価値の国内外への発信を強化し、持続的な市場拡大を実現する	ターゲット別の魅力発信	若者、観光客、域外人材、企業、バイヤー等に対し、それぞれが求める魅力を整理し、発信方法を最適化する。
24	PR戦略		住みやすさ・働きやすさの一体的PR	住宅取得のしやすさや生活利便性など、住んでみてわかる姫路の魅力をお仕事情報とともに発信し、定住促進につなげる。
25	PR戦略		姫路城から地域の魅力へつなげるPR	姫路城を目的に訪れた訪問客に対し、姫路並びに播磨の逸品に触れる機会を創出し滞在時間や消費を伸ばす。
26	PR戦略		市内企業・製品価値の戦略的発信	姫路の企業力、技術力、製品価値を国内外へ発信し、販路拡大、採用、投資につなげる。
27	アイデンティティ産業	姫路らしさを磨く 姫路・播磨地域で育まれた伝統産業の活性化、姫路城を中心とした観光資源の活用、姫路市内産業の6次産業化等により、地域としてのアイデンティティを形成し、その魅力を高めていく	地場産業高付加価値化	皮革、清酒、乾麺、菓子、金属加工等を姫路らしさの源泉として磨き、地域ブランドとしての訴求力を強化する。
28	アイデンティティ産業		6次産業化・地域食ブランドの推進	農水産品、清酒、加工食品、飲食、観光、ECを結び、北部・離島を含む地域資源の需要を拡大する。
29	アイデンティティ産業		商業活性化によるまちの魅力創出	商店街組合等を通じて地域の商業集積地の活性化を促し、商業によるまちのにぎわいを創出することでまちの魅力を高め、持続的な地域経済の構築につなげる。
30	アイデンティティ産業		観光資源と産業資源の融合	姫路城、書写山、家島、酒蔵等の観光資源と地場産業をつなげ、滞在時間と観光消費額を伸ばす。
31	アイデンティティ産業		職人技・クラフト文化の継承と活用	製造業や伝統産業を支える職人の技能やものづくり文化を次世代へ継承し、商品・体験・教育へ活用する。
32	立地特性の活用	物流×製造×エネルギー×観光＝多層型産業都市へ	物流・製造・エネルギー連携による産業集積強化	臨海部や周辺産業の集積、交通網及び立地優位性を維持・活用し、物流、製造、エネルギーが相互に支える産業都市のさらなる形成を推進する。
33	立地特性の活用	立地特性を活かした地域経済の持続的成長を実現する	交通結節性を活かした企業立地促進	地域未来投資促進法等を活用し、新規立地や設備投資を促進する環境を整え、大企業をはじめとする民間活力による工場立地を促進する。
34	立地特性の活用		姫路港の活用促進	国際拠点港湾として、播磨工業地帯の中心を支える港として、脱炭素の物流拠点・エネルギー基地として、地域経済の発展を担う姫路港の活用を促進する。
35	立地特性の活用		播磨連携中枢都市圏による産業活性化	播磨圏域の8市8町が連携し、播磨の産業（観光を含む）の魅力を高めることで、企業集積、人材育成、まちのにぎわいを一体的に高める。

※今後、検討懇話会の意見を参考に項目の加除や文言の整理等を行いブラッシュアップを予定